

BELCA賞 ロングライフ・ビルディング部門 表彰

建物名称 世界平和記念聖堂
 所在地 広島県広島市中区
 建物用途 教会
 竣工 1954年8月
 所有者 宗教法人 カトリック広島司教区
 設計者 村野藤吾
 施工者 清水建設株式会社
 維持管理者 早副 穰



審査評

世界平和記念聖堂は、昭和25年に着工、途中、物価高騰に直面し中断しながら昭和29年に竣工した。

ラサール神父の発案で世界の浄財を集め、村野藤吾が設計を担当し、清水建設が施工にあたった。

現在、建物は竣工して40年の間、風雪と共にして年経た感を強めていた。塔に至る外部階段は、表面は風化し、骨材が浮きでるといふ文字通り洗い流しの様を呈している。建物の外壁は、コンクリートの打ち出し部分も焦土で作ったといわれるモルタルブロックも共に触れると手に砂が残るという状態である。

我が国に、建設資材はおろか食料さえも未だ十分でない頃、世界各国から浄財を集めて行われた聖堂の建設工事は、現在の我々では考えられぬ程の困難な問題に直面し、工事関係者は、この建築が将来何年の間存在し続けるかということを考える余裕は無かったような状況であったようである。

事実、昭和29年8月竣工したものの工事はこの段階では完成に至っておらず、欄間彫刻やステンドグラス、扉など多くのものが寄贈によって付け加えられ、更に10年を経てほぼ完成された。昭和38年、村野藤吾が、「やっと工事が終わった」と述懐したと言われる。

その後、コンクリートの劣化が進行したりして、補修の必要性がせまられた。この間の維持管理は、信者のボランティア活動によってなされており、手に負えない部分を清水建設が担当することになった。

昭和56年、建設工事を担当した清水建設が、建物の詳細な劣化調査を実施、それに基づき可能な限りの補強を含めて、昭和59年補修工事が完了した。この工事は、ほぼ30年前の建設費に見合う費用を必要とした。詳細な調査とこれに基づく補修工事の施工要領、実施の状況は、全て写真と図面によって記録されている。この記録は、建物の補修の資料として貴重なものである。また、補修にあたっては、村野藤吾がみずから示したと言われる目地の作り方など、設計のクオリティーがいささかも失われていないことは、関係者の建物に対する意識の高さを示すものである。

聖堂は、補修をすることによって、関係する人すべてにとってさらに存在感が強まったといえよう。建設工事から補修工事に至る全過程が、聖堂をつくり続ける歴史でもあり、この過程を通じて、建築の存在価値が多くの人々に伝えられた。今回の補修を契機に、更にこの聖堂が、末永く存在し続け、建物の存在価値を多くの人達に伝えうるであろう。